

NASUSHIOBARA Newsletter

広報なすしおばら

10 / 5

October 2019 No.355



特集

地域×学校

——未来へつなぐ——



日新サミットでは、小中学生と地域の大人がテーブルを囲み「私たちでつくる、私たちのふるさと」をテーマに議論が展開。(日新中学校本部)



箒川リフレッシュ大作戦。地元の漁協や消防署など地域から80人以上が参加し、清掃活動やマスクかみが行われた。(塩原小中学校本部)



ボランティア部の22人が、保育園や老人福祉施設、図書館などでボランティア活動を行っている。(黒磯北中学校本部)



中学生と小学生、そして地域住民と一緒にプランターに花を植える花いっぱい運動。(三島中学校本部)



多くの大人たちの手により、子育ては支えられてきた。学校でもこれまで生活科や総合的な学習の時間などに、地域の人と交流してきた。お手玉など昔の遊びを高齢者から学んだり、地域のひとと一緒に田植えや稲刈りをしたりといった経験がある人も少なくないだろう。

しかし、近年、核家族の増加や地域社会のつながりの希薄化などにより、保護者が抱える子育ての不安も増加。学校内でもいじめや不登校などの問題が顕在化し、学校だけでは対処が難しいことも多くなり、地域全体で子どもたちを育てる体制づくりがより一層求められている。

そこで、学校と地域のつなぎ役の人材を育成し、学校に関わる地域住民や団体の横のつながりを広げ、中学校区をつの単位とし、一体となって子どもを育む取り組み(地域学校協働本部)が始まっている。昨年度は、黒磯北・三島・塩原小中学校区で活動が開始。今年も新たに西那須野・日新・東那須野中学校区が加わった。大人と子どもの盛んな交流が、子どもたちに健やかな成長をもたらす。そして、交流が盛んになることで、地域に新たな息吹が生まれる。そのような願いが込められ、子どもを中心とした新たな地域づくりの取り組みが進められている。

さまざまな大人に支えられながら、子どもたちにすくすくと育ててほしい。そんな思いが詰まった活動が市内各地で始まっている。その活動を後押しするのが地域学校協働本部事業。子どもたち、そして地域をつなぎ、明るい未来が拓けるように――。

地域の中で 子どもたちに 生き生きと 育ってほしい

地域学校協働本部

子どもと大人の交流が盛んな地域づくりを通じて、子どもたちの健やかな成長を目指します。



《本部会議》

PTAや民生委員・児童委員・コミュニティや自治会など、幅広い地域の皆さんと学校・公民館などが活動方針を協議。



市指定文化財である三本木の獅子舞を地域の人から教わるクラブ活動*。(東那須野中学校本部)

*クラブ活動：部活動と異なり、教育課程の一環で行われる文化活動や体育活動など。



中学生が小学校に出向き、元気いっぱいに朝のあいさつを交わす。(西那須野中学校本部)



教科書では学べない 「大切なこと」 交流の中で学んでほしい

クラブ活動で地域の人から「本物」を教わる小学生。

さわやかサミットでは、

小・中学生と大人が真剣に議論する。

学校と地域がつながり、

多様な学びを届ける三島中学校本部

その活動に込める思いとは――。



地域で暮らすさまざまな分野の専門家が、先生を務める三島小のクラブ活動。12あるクラブのうち、料理や手芸、自然体験など7つで地域の子どもたちに学びを届けている。今年4月に三島小に赴任した深澤校長は教師生活を振り返り、「クラブ活動にここまで多くの人が関わっている例はあまりない。地域のつながりの強さや温かさを感じた」という。

子どもたちが自らの意思で活動を選び、話し合いながら計画を決めるクラブ活動。「三島小では、地域にいる専門家の方から「本物」を学べる。子ども

たちの将来にも、その体験は生きていくと思う」と話し、「この活動ができているのは前任の伴校長先生や地域の活動推進員の矢板さんや吉野さんの努力のおかげ」と感謝の気持ちを続けた。

interview



三島小学校 校長
深澤 桂一 先生



女の子にも人気の自然体験クラブでは、火起こしを体験。焼いたマシュマロはひと味違う。



手作りの黒板ボードを作成した工作クラブ。慣れない作業に四苦八苦ししながら、お気に入りの作品を仕上げている。

初めての教壇に立った時から36年の年月が過ぎ、核家族化や情報通信技術の進展など、子どもたちを取り巻く環境の変化を目の当たりにしてきた深澤校長。地域全体で取り組む教育の意義について尋ねると、「今の子どもたちに大切なのは自分に自信を持つこと。自尊心を高めるためには、色々な大人から愛情が注がれる経験が必要」と答えてくれた。

「何事も経験。頭で理解しても、実際に経験しなければ学べないことの方が多い」。地域の人々の多様な価値観に触れながら、「本物」を学ぶ三島小のクラブ活動。地域の人に支えられ、豊かな学びの機会が届けられている。

三島中学校で昨年から開催している「さわやかサミット」。小・中学生と地域の大人たちが年に2回、熱く議論している。



「さわやかサミット」など、地域と協働の取り組みを進める三島中学校。地域連携教員の藤田先生から現場の様子と今後について話を聞きました――



三島中学校
地域連携教員
藤田 勤 先生

本校では児童生徒に加え、PTAや地域の方がテーブルを囲んで意見を交わす「さわやかサミット」を実施しています。今年は地域から50人以上に参加していただきました。「いじめの撲滅」をテーマとし、難しい議論でも必死に理解しようと耳を傾け、自らの意見も伝えようとする子どもたちの積極的な姿勢が印象的でした。いきいきとした自然な笑顔や真剣な表情は、私も

感動を感じるほど。地域の参加者からも好評を頂きました。

ここは、従来から地域と学校が連携し、地域のお祭りやボランティア活動に子どもたちが参加したり、学校行事に地域の大人が参加したりと、交流が盛んです。これからは学校と地域が互いに協力するパートナーとして連携を深め、子どもたちの健やかな育みが支えられればと思います。



さわやかサミット

interview

地域の伝統 「獅子舞」 次の世代に 繋ぎたい

獅子舞の保存会と学校が手を結び、地域の伝統芸能「獅子舞」を将来につなぐ。今年の4月から大原間小学校でそんなクラブ活動が始まった。地域の活動推進員にその活動のきっかけを伺った。



interview



大原間小学校
地域学校協働活動推進員

白井 通 さん

江戸時代から続く三本木地区の獅子舞。長年、地区の農家により継承されてきたが、時代とともに農家数が減少。近年は、農家に限らず地区全体で継承を図ってきたが、それでも存続が危ぶまれる状況となっていた。数年前より獅子舞保存会の会長からそんな状況を聞いていたという白井さん。今年4月から地域学校協働本部の活動推進員を務めるにあたり、真っ先に獅子舞の保存が頭に浮かんだという。保存会の意向を確認し、学校に提案したところ、クラブ活動で取り組むことに。「獅子舞存続を願う地域の願い。地域連携を強めたい学校の思い。私はそれぞれの思いを繋いだだけ」と白井さんは控え目に話してくれた。4月から15人の子どもたちが保存会の人に舞や太鼓を学ぶクラブ活動が始まり、11月23日の学校開放では、地



域の人にその成果をお披露目する予定だ。最近、保存会会長と話したら「子どもたちに教える仲間が増えたんだ」と嬉しそうに話していたという。

舞・太鼓・笛などさまざまな役割がいて初めて成り立つ獅子舞。「仲間と一緒に汗を流しながら、自分の役割を見つけてほしい」と期待を語り、「勉強の得意不得意も関係なく、誰もが同じスタートライン。平等にチャンスがあるのが良い」と獅子舞に取り組む意義を続けた。

今後について尋ねると、少し考えて「まずは子どもたちの意見を聴いてみたいかな。私たちがそれをバックアップしたい」と冷静に語る白井さん。親が自分たちの時代はこうだったと押し付けることには疑問を感じているようで、「自らが興味のあることに挑戦し、多様な経験を積み重ねてくれれば」という言葉からは、子どもの主体性を尊重する教育姿勢がにじむ。今年4月に立ち上がった東那須野中学校本部。「慌てず少しずつ進めていきたい。次第に活動が大きくなればいいな」と展望を述べ、「大切なのは大人が笑顔で楽しそうにやること。つまらなそうにしては、子どもはついてこないからね」と今後の抱負を教えてくださいました。

interview



三本木
獅子舞保存会 会長
三本木 直人 さん

——練習後、三本木獅子舞保存会の会長と獅子舞クラブのクラブ長に話を聞きました——

最近は担い手が減り、地域の貴重な財産「獅子舞」が無くなることを危惧していました。クラブ活動を通して子どもたちにも知ってもらい、獅子舞の良さが広まればと思います。子どもたちは生き生きと練習していて、上達がとても早く驚くばかり。教える側としても張り合いがあります。大人になったとき、思い出の一つになってくれたら嬉しいです。

獅子舞のクラブが出来ると知り、伝統芸能に興味があったので、迷わず入りました。保存会の先生はとても優しく丁寧に教えてくれるので、毎回楽しく練習しています。先生は笛と動きがピッタリ合っていてとても凄くて、私の手本です。11月の発表までにもっと上手に踊れるようになって、獅子舞を色々な人に知ってほしいと思います。

interview



大原間小学校
獅子舞クラブ クラブ長
伊藤 心優 さん





100人以上の中学生ボランティアが自治会などのブースをお手伝い。若い力は餅つきでも大活躍。



20人以上の子どもたちの有志が集まり、地域の神輿を担ぐ。額に大粒の汗を輝かせながら、夏祭りの会場に神輿は進む。



みこし 神輿がつなぐ絆 子どもたちを 地域で育てる



interview



いなむらコミュニティ
推進協議会 会長
つよし
相馬 剛 さん

地域へのボランティア活動に力を入れる黒磯北中学校本部。
夏のいなむらまつりには多くの中学生の姿が。
長年、学校と連携した地域づくりを進めてきた
いなむらコミュニティの取り組みを紹介する。

今では恒例の神輿も、十数年前までは長らく倉庫に眠る時期が続いていたという。重厚なその神輿が作られたのは30年ほど前。大勢の担ぎ手を要したが、徐々に地域の人手は減り、他の地区から集める担ぎ手が増加。しかし、他の地区から集めるには費用が必要で、その経費は次第に祭りの予算を圧迫し、20年ほど前に神輿は祭りから姿を消した。「神輿を復活させたい。地域の人だけで担ごう」。周囲に呼びかけ、神輿は再び表舞台に登場。子どもたちも加わり、今年は20人以上が参加した。また、100人を超える中学生が祭りに協力。今では、地域と学校の交流が盛んに

神輿を担ぐ声、夏祭りの会場に響き渡る。大人に混ざり、負けじと神輿を担ぐ子どもたちの額には、大粒の汗が輝く。8月4日、いなむらまつりの会場には、今年も多くの子どもたちの姿があった。「神輿を担ぐと、不思議と一体感が生まれてさ。彼らの真剣な姿を見ると感動するよ」。いなむらコミュニティで10年以上会長を務める相馬会長は嬉しそうに教えてくれた。

なつた稲村地区だが、かつてはそれほどではなかったという。
地域で取り組む子育て

交流のきっかけは、稲村小学校35周年のモニメント作り。当時、PTAの役員だった相馬会長は「学校だけでなく地域と一緒に取り組もう」とコミュニティに協力を要請。翌年の夏祭りにはPTAでブースを出すなど、徐々に交流の輪が広がっていったという。そんな時、県内で発生した児童誘拐事件。「子どもを守るために地域で何かできないか」。危機感を抱いた当時の校長と相馬会長は、同じ思いの保護者や地域の人と「見守り隊」を結成。有志が立ち上がり、送迎や登下校の見守りを始めた。その活動は自治会の協力も得ながら、スクールガードへと引き継がれ、今も続いている。

いるという。「よその子どもではなく、地域の子どものという感覚。地域で子どもを育てている」と相馬会長は満足気だ。

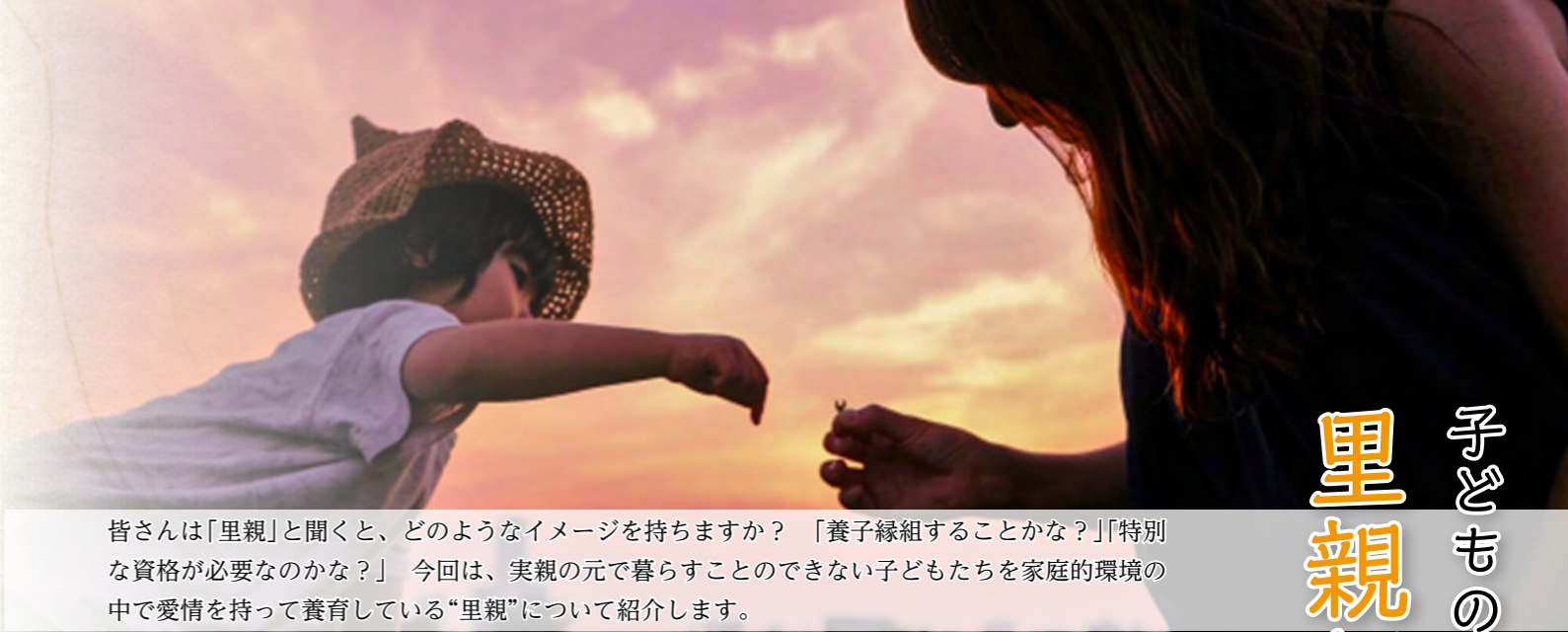
「子どもたちが成長し、外に出ても、故郷として胸に残っていてほしい。もし、ここに帰ってきて、地域の担い手になってくれたら最高だね」。活動への思いを尋ねるとそう答えてくれた相馬会長。「もっと多くの人に祭りに来てほしいし、地域と一緒に盛り上げてくれる仲間も増えてくれれば」。そんな期待を胸に、これからは子どもたちのため、地域のために奔走する。



「見守り隊」の活動を引き継いだスクールガードが、現在も子どもたちの下校を守っている。

—— 終わりに ——

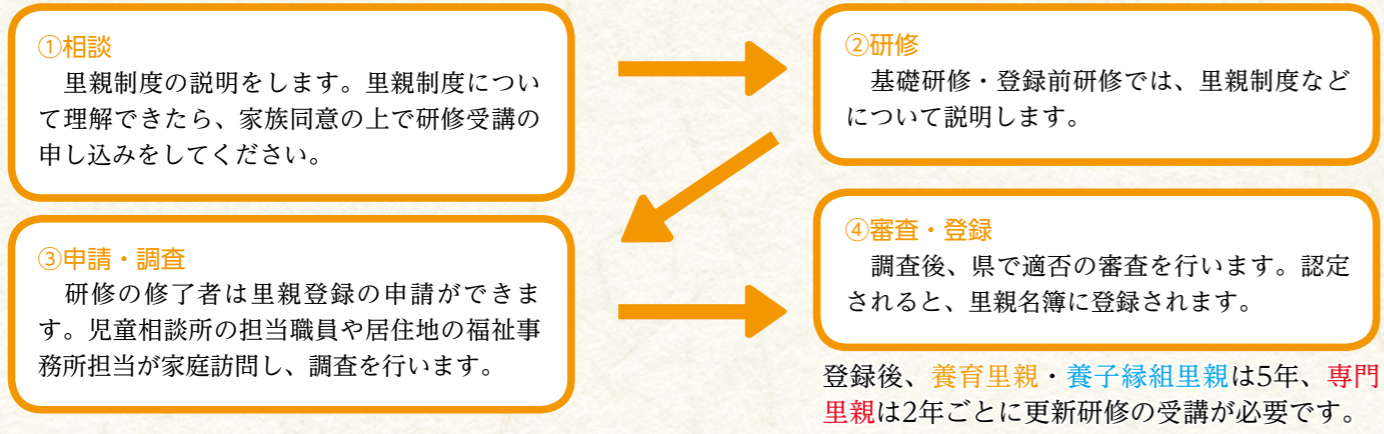
ゲームやスマホなど、遊び道具があふれている現在。かつては、自ら遊びを考え、地域をかけ回って遊んでいた子どもたち。おじいちゃん、おばあちゃん、近所のおじさん、おばさん。多くの大人に囲まれて、豊かな心やふるさとへの愛が育まれてきた。クラブ活動にスクールガード、そして地域のお祭り。地域学校協働本部をきっかけに、地域と学校の連携を深め、子どもと大人の交流を増やしたい。お祭りに行ってみたり、子どもたちにあいさつしたり・・・小さな積み重ねが、子どもたちを健やかに育て、豊かな地域を創っていきます。あなたにもできることが、きっとあります。小さな一歩を踏み出してみませんか——



皆さんは「里親」と聞くと、どのようなイメージを持ちますか？「養子縁組することかな？」「特別な資格が必要なのかな？」今回は、実親の元で暮らすことのできない子どもたちを家庭的環境の中で愛情を持って養育している“里親”について紹介します。

里親になるためには

研修を受けたり経済的に困窮していなかったり、いくつかの要件がありますが、何よりも必要なのは子どもの養育に対する理解と熱意、そして子どもへの豊かな愛情です。現在、市内ではすべての種類を合わせて22世帯の里親が登録されています。



短期の里親も求められています

「児童養護施設」で暮らす子どもたちが、家庭的な雰囲気を体験するために「ふれあい里親」事業を実施しています。夏休みなどの長期休暇中に、短期間(1~2泊程度)の里親家庭への外泊を行います。

また、実親の入院などで一時的に養育者が必要になる子どももいます。地域の里親が支援することで学校への通学を継続することができたり、環境を大きく変えずに生活することができたりと、子どもにとってはとても大きなメリットがあります。

市内の里親の声



—毎日が本当に
 楽しくなりました—

養子縁組里親
 Mさん(市内在住)

きっかけは気軽な気持ちの問い合わせ

以前から子どもは欲しかったのですが、仕事の関係もあいなかなか難しかった中、里親募集のポスターを偶然見かけて問い合わせたのがきっかけでした。その後里親に認定されてからは、いつ連絡が来るのかとワクワクしていましたが、なかなかマッチングには至りませんでした。

私たち夫婦の年齢なども考慮し、里親の登録更新をしない予定だった認定5年目に、児童相談所から突然連絡が。そこから夫婦で相談し、何度も子どもに会いに行きました。そして昨年5月、待望の里子を迎えることができました。

大変なことはあっても、楽しいことのほうが多い

最初のころは、夕方になると泣き出したり、乳児院ではよく食べていたご飯を食べなくなったりと大変な面も少しありました。でも、それ以上に毎日が本当に楽しく、外出する機会も増え、子どもを迎えるとこんなにも生活が変わるのかと実感しているところです。育児日誌やアルバムを見返すたびに「里親になってよかった」という思いがこみ上げてきます。初めは反対していた親族もとてもかわいくなって支えてくれているので感謝しています。



後悔しない人生を

子どもが欲しい人、あきらめきれない人には、里親になるというのは一つの選択肢だと思います。もともと夫婦も他人同士ですし、大切なのは後悔しない人生をどう送るか。子どもに愛情を注ぐのはもちろんですが、自分自身も楽しんで生活できている今、とても幸せです。

ますます必要とされている里親

家庭で暮らせない子どもたちの生活場所としては「児童養護施設」がありますが、子ども4人に対し大人1人が関わるので限界があります。特に幼少期の子どもには、健やかな成長のために特定の大人との「愛着形成」が必要です。いつも一緒に生活する大人との愛着が安心感、信頼感を与え、感情のコントロールを始めとする心の健全な発達を促します。日によって担当者が変わる児童養護施設と違い、子どもに対して家庭的に愛着を持って接することのできる里親は、近年増え続ける児童虐待などの影響もあり、さらに重要な存在となっています。

里親の種類

養育里親

家族と暮らせない子どもを一定期間養育する里親です。養育期間は、子どもの状況に応じて変わります。

【専門里親】

養育里親の中でも、虐待や非行、障害などの理由で専門的な援助を必要とする子どもを養育する里親です。

養子縁組里親

養子縁組をして、養親となることを希望する里親です。

親族里親

実親が死亡、行方不明などで養育できない場合に、親族が子どもを養育する里親です。

里親のための支援があります

- 養育費として里親手当、生活費、学校教育費、入学支度費などが支給されます。医療費は全額公費負担となります。
- 委託した里親と子どもとの関係構築を支援します。
- 里親同士の交流により、情報交換や育児相談ができます。



01

10月26日(土)・27日(日)に
那須野巻狩まつりを開催します

◆1日目◆ 大将鍋出陣式



- ◆とき 10月26日(土) 午前9時30分～午後3時
- ◆ところ 那須塩原駅西口駅前広場
- ◆内容
 - ・大将鍋出陣式
 - ・巻狩鍋の販売
 - ・みこしパレード
 - ・巻狩太鼓
 - ・巻狩踊り
 - ・ステージ公演 ほか

◆2日目◆ 本まつり



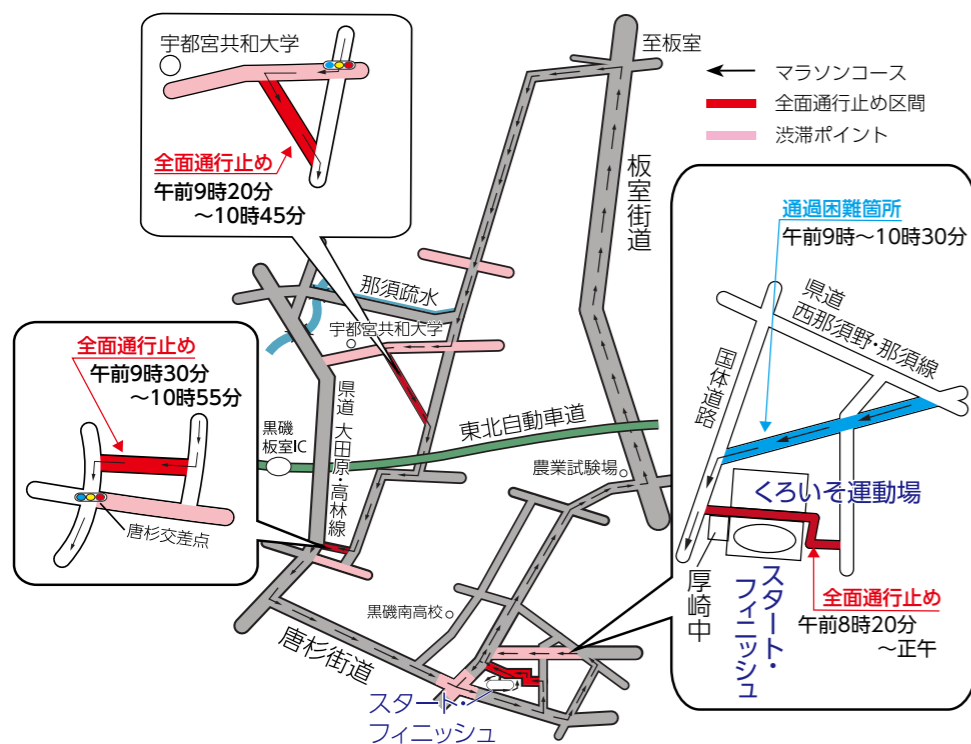
- ◆とき 10月27日(日) 午前9時～午後3時
- ◆ところ 那珂川河畔運動公園
- ◆内容
 - ・巻狩鍋の販売(10種類)
 - ・巻狩踊り大会
 - ・巻狩ショー(ハローキティ出演)
 - ・太鼓の響演(黒磯巻狩太鼓、会津鶴ヶ城太鼓若駒会)
 - ・カミナリライブショー
 - ・キッズダンス(Dream Treasure)
 - ・苗木無料配布(ハナミズキ 400本)
 - ・ひたちなか市物産コーナー
 - ・物産企業フェア・産業交流フェア
 - ・協賛団体出展 ほか

02

11月3日(日) 那須塩原ハーフマラソン
交通規制に協力してください

ハーフマラソンは、市内道路をコースに使用するため、車両などの交通規制が行われます。ご不便をおかけしますが、理解と協力をお願いします。

- ◆とき 11月3日(日) 午前8時20分～正午
- ◆内容 車両片側交互通行または全面通行止め
- ◆問い合わせ 国土スポーツ振興課 ☎0287(37)5439

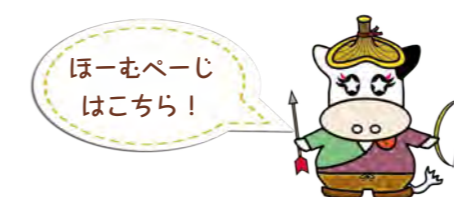


※特に唐杉交差点周辺、くろいそ運動場周辺は大変混雑するので、注意してください。
※場所や競技の状況により規制時間・内容が変わります。現場係員の指示に従ってください。

みんな
シャトルバスを
使ってね!



※大将鍋出陣式、本まつりの開催に伴い、会場周辺で交通規制があります。
※27日の本まつりでは、例年会場近くの駐車場が大変混み合います。
周辺駐車場から無料のシャトルバスが運行されるので、利用してください。
※まつりの詳細については、市ホームページや新聞折込チラシなどで順次お知らせしていきます。



▶問い合わせ
那須野巻狩まつり実行委員会事務局(商工観光課内)
☎0287(62)7154

03

高度な養蚕技術で農林水産大臣賞
市長特別賞を授与



養蚕(さんけん)産業や絹文化の維持継承とその活性化を目的に行われた業界最大のコンクール「第7回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール」で、最高賞の農林水産大臣賞を受賞した佐々木一郎・啓子夫妻(三区町)に、9月6日、市長特別賞を授与しました。一郎さんは「養蚕を続けて約50年。良いものを作るといふ一心で地道にやってきたことが評価されて感激している」と受賞の喜びを口にしてくれました。

○問い合わせ ☎0287(62)7108

04

学びの祭典「なしお博」に行こう
くすしおばらまなび博覧会



小・中学生の事例発表や作品展示、公民館や博物館の事業紹介、体験コーナーやコンサートなど、さまざまな催し物を行います。

◆とき 11月9日(土)・10日(日) 午前9時30分～午後3時

◆ところ 宇都宮共和国那須キャンパス(鹿野崎131)

※臨時駐車場(波立小学校)からの無料シャトルバスも利用してください。
○問い合わせ ☎0287(37)5364



そば打ちって楽しい!! ~高林そばフェスタ in 高林中~

地元名産のそばに親しもうと始まった高林そばフェスタ高林中。20回目の節目を迎えた今年は、1~3年生91人のほか、学区内の小学生も参加し、名人の手を借りながらそば打ちに挑戦しました。会場では、そば粉の混ぜ方や切り方など、上級生が優しくアドバイスする姿も。2年生の藤田隼飛さんは「そばが好きでよく食べます。そば打ちは1年ぶりで緊張しました」と笑顔で話してくれました。



1 初めてそば打ちを体験する小学生を見守る中学生 2 そば打ちに欠かせない道具の数々。幅の広い包丁は持っただけでも相当な重さ 3 10人を超える名人が横一列に並び光景は圧巻 4 自分たちで打ったそばの味は格別! 5 子どもたちが一生懸命作ったそばは敬老会の皆さんに振る舞われました



共に助け合って 防災グッズ作り ~大山地区合同避難訓練~

災害時に重要な、住民同士の助け合い「共助」。地域の共助を高めるため、大山小学校と大山地区コミュニティが、9月12日に共同で避難訓練を実施しました。サイレンが鳴ると、子どもたちは教室から一斉に避難。地域の住民と合わせて総勢900人以上が校庭に集まりました。

その後、体育館に場所を移して行われた防災グッズ作り。作業が難しい部分は共に助け合いながら、ごみ袋を使った雨がっぱなどを作っていました。



モ〜っと牛乳を飲んでね! ~牛乳の日イベント 地元産牛乳で乾杯~

9月1日、那須塩原駅西口駅前広場で開催された“なすしおばらマルシェ”の会場で、牛乳の日イベントが行われました。市長の音頭で地元産牛乳の乾杯を行うと、牛乳をおいしそうに飲み干す姿があちらこちらで見られました。また、牛乳の無料配布や地元高校生による牛乳を使った食品の試食も行われたほか、市地域おこし協力隊による地元産チーズを使用したチーズフォンデュが初めて販売され、多くの人が舌鼓を打ちました。



初秋の温泉郷の風物詩 ~塩原温泉まつり~

9月8日、塩原温泉郷で開催された恒例の塩原温泉まつり。この祭りは大正天皇の即位を祝って人形を乗せた山車を引いたのが始まりとされています。温泉街の5地区からそれぞれ自慢の山車が練り出すと、太鼓、笛、かねの祭囃子を響かせながら街中を練り歩きました。山間部特有の上り坂では、「ワッショイ! ワッショイ!」とみんなで声を合わせて山車を引っ張り、初秋の温泉郷は活気に包まれました。



1 見事な山車で祭りを盛り上げる 2 祭りを彩る女性陣 3 太鼓の響宴では自慢の腕を披露 4 市ブランドキャラクターのみるひいも山車飾りに 5 力を合わせて「ワッショイ! ワッショイ!」



当時の雰囲気を感じて ~大正天皇御生誕140年記念コンサート~

大正天皇の誕生日である8月31日に、塩原もの語り館で大正天皇御生誕140年記念コンサートが開催されました。かつて塩原御用邸でご自身の誕生日を迎えられた際にも、室内管弦楽の演奏でお祝いをしました。当時をしのび、黒磯チェンバーアンサンブルの5人が11曲を披露し、観客約40人を魅了しました。友人に誘われて訪れた伊藤節子さんは「初めて生演奏を聴いた。素晴らしかった」と感激していました。



バンドにダンス アートって楽しい♪ ~アーティストだらけの夏祭り~

アートを活用して地域を盛り上げようと、「アーティストだらけの夏祭り」が8月25日、那珂川河畔公園にて開催。ジャズバンド演奏やチアダンスなど多彩な催しが来場者を楽しませました。

イベント内で、2020応援ソング「パプリカ」を踊り、動画を撮影する「エールなすしおばらパプリカプロジェクト」もスタート。次回は10月12日の午前9時40分から旧青木家那須別邸前で撮影します。



パプリカの詳細は↑



お便りBOX

皆さんからいただいたお便りを紹介します。
今後の広報誌づくりの参考にさせていただきます。

◆ 毎回来しみに読んでいます。以前より目を見張るようになつてます。先日少しの時間でしたが、市長さんに声をかけました。もっと元気のある声を発したら、ふれあう側も元気をいただけるのではないかと感じました。一般市民はふれあうと言ひます。

MとKさん(宮町)80代女性

◆ 9月5日号の特集でオーストラリア・リンツ市と青木邸の所は良かったです。青木邸に行ったときに、写真とその頃の説明などが出ていて、歴史を知りました。青木地区に再現ができたのは素晴らしいことで住民としての誇りです。
T・ーさん(西新町)70代女性

(匿名)

◆ 広報の発行は一回で良いです。5日発行分はペラペラめくるだけでまちの必要事項は書いていませぬ。発行のための諸々の諸経費はもったいないだけでなく、配布するのも手数です。やめてほしいです。税金の無駄遣いです。

◆ 9月5日号の特集でオーストラリア・リンツ市と青木邸の所は良かったです。青木邸に行ったときに、写真とその頃の説明などが出ていて、歴史を知りました。青木地区に再現ができたのは素晴らしいことで住民としての誇りです。
T・ーさん(西新町)70代女性

白峰さん(南町)80代女性

Q. あなたが好きなコーナーはどれですか？(複数可)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 表紙 | 2. 特集 |
| 3. 行政 info | 4. タウントピックス |
| 5. 子育て連絡帳 | 6. チャイルドトピックス |
| 7. 健康だより | 8. 図書館へ行こう！ |
| 9. お便りBOX | 10. なすしおばら珍百景 |
| 11. ちっちゃな自然 | 12. 編集後記 |
| 13. げんきびと | 14. ものづくり若人 |
| 15. 私のまちの近い遺産 | |

広報なすしおばらを読んだ感想、取り上げて欲しい話題や記事などをお書きください。

募集中

お便りBOX

皆さんの声を紙面で紹介します

皆さんからいただいたお便りを紙面で紹介していきます。広報なすしおばらを読んだ感想、取り上げて欲しい話題などを投稿してください。



※応募ははがきかQRコードから。

なすしおばら 珍百景 あなたの"珍"がまちの魅力に？

あなたの身の回りの"珍"な光景、出来事、思い出などの写真を募集します。その1枚が新たな魅力の発見につながるかも。

※応募は次ページのQRコードを参照してください。

※いただいたご意見は、内容を変えない範囲で添削させていただく場合があります。
※紙面の都合上、掲載できない場合がありますのであらかじめご了承ください。

図書館 HP



図書館へ行こう！

10月27日(日)~11月9日(土)は読書週間です。
新たな本との出会いが、あなたを未知の世界へと誘います。



NEW!

『はじめての苔テラリウム』



著：園田 純寛 成美堂出版
失敗しない植え方、育て方、メンテナンスがわかる
遙か昔から変わらない姿で私たちに魅了してくれる苔。その姿を身近に感じられるのが苔テラリウムです。この一冊で基礎から応用まで学び、素敵な趣味を始めてみませんか？

お手軽だけどとても奥が深い苔テラリウム

『家族って、いいな。』



著：hiro 大和出版
母に、父に、娘に、息子に…、今すぐ会いたくなる感動のストーリー
母と二人の兄、そして"私"の四人家族。決して裕福とは言えないその家には、他には負けない程の母の深い愛がありました。タイトル通り、家族っていいなと思える一冊です。

優しさと愛は、受け継いでいくもの。

『高齢者のおやつレクリエーション』



監修：鈴木 恵 成美堂出版
介護現場で楽しく簡単に作ることが出来るおやつレシピを紹介しています。その他にも、高齢者に作り方のポイントをどう伝えたら良いのかの例も載っている親切なレシピ本です。

もっと美味しく。そのためには楽しく料理を。

『ぎょうれついろいろ』



さく：accototo 幻冬舎
身の周りには、いろんな「ぎょうれつ」がいっぱい！ ありのぎょうれつからはじまって… UFOまで!? ぎょうれつをさがすのが楽しくなってくる一冊です。

あなたの周りにはどんな「ぎょうれつ」がある？

『ぜんぶホント！生命の一代記 泣けるいきもの物語』



監修：今泉 忠明 学研プラス
「飼い主を救ったブタ」「死んでいく人によりそうネコ」など、個性あふれる動物たちのちょっと泣けるお話を42話収録。けなげな姿にあなたもほろっと泣けてくるかも。

動物たちのほろっと泣ける話がいっぱい。

『長浜高校水族館部!』



文：令丈 ヒロ子 講談社
毎月第3土曜日に「水族館」の運営をしている「水族館部」の生徒たち。魚の繁殖・研究・イベントの3班に分かれて活動する中で、次々と思ってもよめ出来事が起きていく…。

高校に水族館があるの!?

イベント情報

絵本の勉強会 参加者募集

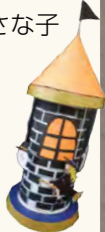
持ち寄った絵本をおのおの黙読後、気に入った1冊を紹介し合います。
▶とき 11月6日(水) 午前10時~正午 ▶ところ 黒磯図書館
▶テーマ 近年出版された集団の読み聞かせに良いと思った絵本
▶対象 読み聞かせボランティアをしている人、絵本や読み聞かせに興味のある人 ▶参加費 無料 ▶定員 定員なし(申し込み不要)
▶その他 筆記用具、テーマに沿った本を持参してください
▶問い合わせ 黒磯図書館

公民館(図書館分室)も利用してください

図書館で借りた本を他の図書館や分室に返すなど、貸出・返却が可能です。

おはなし会と工作会 「くるくるハロウィン」をつくろう

ハサミを使った作業はないので小さな子どもでも安心して参加できます。
▶とき 10月19日(土) 午前10時30分~11時
▶ところ 塩原図書館
▶対象 幼児・小学生
▶参加費 無料
▶定員 15人(定員になり次第締め切り)
▶問い合わせ 塩原図書館



▶問い合わせ 西那須野図書館 ☎(36)6001 黒磯図書館 ☎(63)9031 塩原図書館 ☎(48)7521



▲バックナンバーはこちら

あぜ道には花がいっぱい
～コシオガマ～



コシオガマ 撮影日:2016.10.2 撮影場所:寺子 豊岡地区

コシオガマって?

ハマウツボ科コシオガマ属
学名: Phtheirospermum japonicum

9～10月に水田のあぜなどに紅紫色に咲くシオガマの一種。



ヤクシソウ

夏が過ぎ、ここ数年の危険なほどの猛暑は忘れてしまい、朝晩が寒いなんて言うようになりまし。野山はすっかり秋模様です。
今回紹介するのは、寺子の豊岡地区とそこに咲くコシオガマなどです。豊岡地区には農業用の大きなため池があり、秋になると、その周辺のあぜ道には、さまざまな花が咲きます。ヤマラッキョウ、ヤクシソウ・ミソソバ・アキノウナギツカミ・ナギナタコウジユ・ツリガネニンジンなどです。もちろん豊岡地区以外の野山でも同じような花が咲いています。
コシオガマは、ハマウツボ科コシオガマ属(以前はゴマノハグサ科だったので、古い図鑑にはそのように書かれています)の一年草で、草丈が30～60cmで日本中に分布しています。秋に咲く花は黄色いものが多いのですが、コシオガマは写真のような赤い花なので見つけると少し嬉しくなります。
那須山で名前にシオガマとつくものはエゾシオガマやトモシオガマです。シオガマという名の由来は諸説あるようですが、シオガマの葉が美しいので、「葉まで美しい」から、浜で美しいものは、海水から塩を作る塩竈の立ちのぼる煙なので、シオガマという名がついたと言われているようです。なんともだじやれのような話ですね。確かにシオガマの葉は縮れた感じが独特です。ぜひ秋の野山を歩いて秋の花を楽しんでください。
おさむ

編集後記

取材のため、同僚と西那須野中学校を訪れたときのこと。子どもたちはちょうど掃除の真っ最中。玄関を一生懸命掃除している姿に感心していると、こちらに気付き手を止め、元気に笑顔で「こんにちは」とあいさつしてくれました。しかも、わざわざスリッパまで出してくれるおもてなし。突如現れた「坊主のおじさん」と「小さめのおじさん」の謎のおじさん二人組に対して、きちんと対応してくれた子どもたちに感謝です。それに比べて、中学時代の私は…。振り返ると恥ずかしいので、前だけ向いて生きていこうと思います。(平石)

小学生のころ、十五夜には「ぼうじぼ」が地域の各家庭を回っていました。先日、小学生がいなかったために「ぼうじぼ」が中断となった地域があると聞き、郷土芸能を伝承することの難しさを感じました。取材で訪れた塩原温泉まつり。若連が山車をつくり、中学生がお囃子を大人に教わり、祭当日は地域みんなで山車を引く。どんなに坂道を引くのが大変でも、参加している子どもたちの顔はみんな笑顔。この笑顔が未来にも続いていけばいいな!と(涙腺がゆるゆるの自分に年齢を感じながらも)願うばかりです。(大貫)

珍百景
なすしおばら

あなたの"珍"を募集中

＜応募方法＞

方法① きらきらホット
なすしおばらに投稿
珍百景投稿用フォームに
必要事項を入力。



方法② シティプロモーション課に電話
☎0287(62)7109

●必要事項

住所、氏名(ペンネーム)、電話番号、年齢、性別、珍百景写真、タイトル、撮影日、コメント(100字程度)

●注意点

※人権侵害、政治・宗教活動、意見広告や宣伝につながるものなど、掲載できない内容があります。
※内容を変えない範囲で添削する場合があります。
※被写体の人物または所有者などに許可を得てから応募してください。
※インターネットなどからの転載はご遠慮ください。
※応募いただいた写真は市の情報発信活動に使われていただく場合があります。



木に抱きしめられている切り株

投稿者 リリーさん(30代女性 西富山)
撮影場所 高柳(撮影日 R1.8)

朝、散歩している公園でいつも気になっている切り株です。種類が違う木に、大事にされている切り株が幸せそうに見えます。

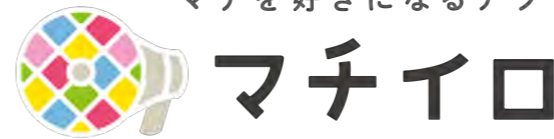
3 2 5 8 5 0 1

お手数ですが
63円切手を
貼ってください



行政情報アプリ「広報紙」が「マチイロ」としてリニューアル!

マチを好きになるアプリ



自治体がもっと身近になる機能が盛りだくさん!

Three boxes showing app features: 1. 役立つ行政情報を見逃さない! 2. 自分に合わせた情報が届く! 3. いろいろなマチの魅力をお届け!

ダウンロードはこちらから



※「広報紙」をご利用の場合、アップデートによって新アプリに切り替わりますので、新たにダウンロードする必要はありません。 ※アプリの使用は無料ですが、通信費は各回線ごとのご負担となります。 ※広告が表示されますが、各自治体とは何ら関係ありません。

マチイロに関する問い合わせは株式会社ホープ(092-716-1404)まで



那須塩原市役所
シティプロモーション課
「広報なすしおばら係」行

ご住所 □□□□□□□□

那須塩原市

※掲載する場合は実名ではなく、イニシャルまたはペンネームで掲載します。

フリガナ
お名前

ペンネーム
(希望者のみ)

☎電話

年齢 歳 性別 男 ・ 女



のぞみ
望
(西那須野図書館前)



那須野
(にしなすの運動公園)



かそのジサマ

私のまちの 近い 遺産

問い合わせ
図書館学習課
☎0287(37)5419

Topic

南庄作の企画展が開催！

今回ご紹介した南庄作の企画展「南庄作 いのちを彫る」が、10月12日から来年1月19日までの間、那須野が原博物館で開催されます！展示だけでなく、ミュージアムトークやワークショップなど、美術に触れるイベントを多数用意していますので、ぜひお越しください！



いのちを彫る彫刻家

みなみ しょうさく
～南庄作～

秋も深まってきました。秋といえば「芸術の秋」。今回は本市が輩出した彫刻家「南庄作」を紹介します。

南庄作は明治37年、三区町に農家の長男として生まれました。幼い頃から木彫りの彫刻に興味を持ち、昭和21年には、「ザクロを持つ児」で日本最大の総合美術展である日本美術展覧会(通称「日展」)に入选し、後に日展の審査員や日本彫刻会運営委員を務めました。南は、近代日本を代表する彫刻家である平櫛田中(ひらくしでんちゅう)の下で彫刻を学び、そこで学んだ技術、創造性を駆使し、多くの作品を世に送り出しています。代表作である「かそのジサマ」は改組第5回日展に出品された作品で、市の指定文化財となっ

ています。農夫が真摯(しんしん)に作業に向き合う姿には、農民彫刻家として南が持つ、独特の哲理性や、生きることに対する強いメッセージを感じ取ることができます。南が命を吹き込んだ作品は、身近な場所では西那須野図書館の前や、にしなすの運動公園の広場に設置されています。皆さんも一度は目にすることがあるのではないのでしょうか。今年の秋は図書館で読書をした後、または運動公園で汗を流した後、南の作品に触れ、充実した秋を過ごしてみてください。